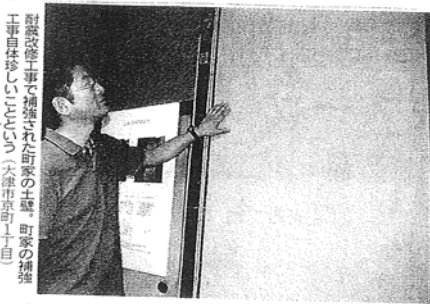


ト、花火を披露したミシカ、など、クレロ、や絵の具で面白いように表現している。車内展示は二十四日まで、二十七日か二十八日は、浜田アール・カス・佳作展でも展示する。(山田修裕)

築112年の町家耐震補強

大津龍龍キャンパス 改修工事終わる



大津市の市街地とハルパをめぐって作る龍龍キャンパスが、この補強されたほか、床のほとり耐震改修を終えた。壁にパネルなどを使い強度を上げた。町家の耐震補強工事。市内で初めてという「今後の指針になれば」としている。

大津百町再生へ本格始動

産経



町家の補修・改修に市が補助金

旧東海道の風情ある町並みを守るため、沿道町家の補修・改修を改善するため補助金を補助する事業が、大津市が始めた。7月に策定された「大津百町の再生」の一環。同市東町1、2丁目と中央1、2丁目にあられた旧東海道の約500軒に面した約100世帯の建物が対象で、向かい合わせの両1丁目と両2丁目を定める。「まちを再生」に所有者が参加することが条件となる。

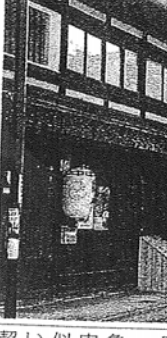
H20. 09. 20 産経

H20. 09. 20 京都

大津市、旧東海道沿いの景観保全へ

御町家改修補助スタート

大津市は中心市街地 祭を支える町内にふの町家の改修に、独自の、風情ある景観の補助金制度をスタートした。旧東海道沿いにある、まちなみ協定の町家について、国道161号交差点から中央大通り交差点まで約六百軒の旧東海道三百万円を補助。大津市が対象。住民たちが、自主的に景観保全について交わした「まちなみ協定」に参加していることが条件となる。



大津市が町家改修の補助金制度をスタートさせた旧東海道沿い

H20. 09. 20 京都

「大津百町」の個性再生を

「御町」として栄えたまちのアナウンティイ、復活させようと、大津市と中心市街地の住民らが、かつての町名を記した「口調の町名板」を設置する計画を進めている。早ければ来年度にも具体化する予定で、「旧町の名地域の歴史、文化を映した財産、観光面での演出効果とともに、住民のまちへ思いも強まる」と期待している。

中心市街地では、かつて「桶屋町」「鍛冶屋町」「船頭町」など、土地の由来を色濃く映す百近い町名が残っていた。しかし、一九六二年に中心「長等」を現在の表記に変更され、住所から消滅した町名を再生する計画は、一市、中心市街地活性化基本計画」の掲げられた「大津百町の再生」に向けた取り組みの一つ。市や住民で組織する「町名再生推進母体「活性化協議会」で、実施へ向けた検討を続けていく。

個性化計画」の掲げられた「大津百町の再生」に向けた取り組みの一つ。市や住民で組織する「町名再生推進母体」で、実施へ向けた検討を続けていく。

旧町名の表示板設置へ



旧の名を記した古町名板(右)と現在の表記記号。旧町名板を複製して大津百町の再生を目指す。(長谷川真一)

H20. 10. 20 京都

貸し手探しにイベントも

中心市街地に残る町家を生かしたまちづくりを進めようと大津市が立ち上げた町家賃貸の仲介窓口「大津百町町家じょうほうかん」が、町家の貸し手が見つからず苦戦している。これまでに商談が成立したのは、龍谷大が昨年暮れに開設した町家キャンパス「龍龍」（同市京町）のみ。市や関係者らは「町家が店になったにぎわい」を模擬店でシミュレートするイベントを計画するなど、所有者らの理解と協力を得る試みを続けている。

大津「町家じょうほうかん」



歴史ある町家も残る大津の町並み。活用に向け、さまざまな試みが行われる。大津市中央

大津市の平成16年度の調査で、JR大津駅から徒歩10分圏内に残る町家が1600軒ほどあり、うち1割以上が空き家となっている。町家部には、かつて交通の要衝として受けた面影を残す町家が1600軒ほどあり、JR大津駅から徒歩10分圏内に残る町家が1600軒ほどあり、うち1割以上が空き家となっている。町家部には、かつて交通の要衝として受けた面影を残す町家が1600軒ほどあり、うち1割以上が空き家となっている。

町家部には、かつて交通の要衝として受けた面影を残す町家が1600軒ほどあり、うち1割以上が空き家となっている。町家部には、かつて交通の要衝として受けた面影を残す町家が1600軒ほどあり、うち1割以上が空き家となっている。

H20. 10. 30 産経

屋外で「大津百町市」

にぎわい創出 町家の利活用促進へ



「大津百町市」の会場となる天孫神社境内（大津市京町3丁目）

来月から月1回、中心市街地の町家へ出店を希望する人たちが、手作りの品を販売する屋外マーケット「大津百町市」を始める。また、かににぎわいを呼び込み、町家の利活用を促すムードづくりになるよう期待している。

手作り品販売 出店希望者後押し

市街地に数多く残る町家に似合う「手作り」環境にやさしい「自然」な商品。商品をテーマに、工芸品や食品、雑貨などを販売してもらう。

初回は12月6日で、天孫神社（同市京町3丁目）境内をメイン会場に、二区四方の販売スペースを三十三区画設ける。神社周辺の町家所有者にも協力を呼び掛け、軒先にスペースを設けることも検討する。

H20. 11. 05 京都

町家の品々、にぎわいを呼びたい。大津市は11月16日、町家の品々、にぎわいを呼びたい。大津市は11月16日、町家の品々、にぎわいを呼びたい。大津市は11月16日、町家の品々、にぎわいを呼びたい。

2008年(平成20年)11月24日 月曜日

大津百町市 出店希望 予想の倍

大津市が中心市街地を舞台に、12月6日スタートし、手作りの品を販売する「大津百町市」で、初の出店希望者が予想の二倍以上となる人気となった。出店希望者が予想の二倍以上となる人気となった。出店希望者が予想の二倍以上となる人気となった。

市、スペース拡大

大津市は、12月6日、天孫神社（京町三丁目）境内、周辺の町家の軒先などで、この大津百町市を始める。大津市は、12月6日、天孫神社（京町三丁目）境内、周辺の町家の軒先などで、この大津百町市を始める。

H20. 11. 24 朝日

こだわり「百町市」で大津に活気を

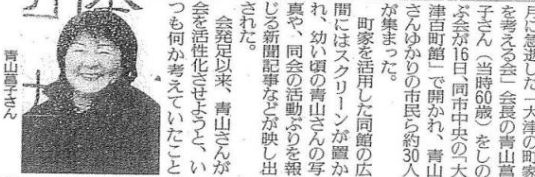
大津市中心部の神社を舞台に、12月6日スタートし、手作りの品を販売する「大津百町市」で、初の出店希望者が予想の二倍以上となる人気となった。出店希望者が予想の二倍以上となる人気となった。出店希望者が予想の二倍以上となる人気となった。

大津百町市が開催される際に掲げられるのぼり旗＝大津市天孫神社1丁目

H20. 11. 09 朝日

「町家守る 遺志継ぐ」

橋本 大津考える会長・青山さんしのぶ会
大津市内に残る町家を生かす活動に貢献し、今年9月に急逝した「大津の町家を考える会」会長の青山薫子さん（当時60歳）をしのぶ会が16日同中央の大津百町館で開かれ、青山さんゆかりの市民ら約30人が集まった。



青山薫子さん

会発足以来、青山さんが会を活性化させようと、いつも何か考えていたこと



生前の写真を見ながら、青山さんをしのぶ参加者ら（大津市で）

い」と会員にメールを送ったことなどのエピソードが披露された。

2004年、大学の授業を通じて知り合った脇田健一・鹿谷大教授（50）は「一

H20. 11. 17 読売

一緒に大津市内を歩こうね」といっても言っていた。学生や自分にもっと町家のことを教えてもらおうと思って「いたのに」と改めて肩を落とした。

現在、同会は会長不在のまま。12月14日に総会を開き、後任を決定する。事務局の阿部圭宏さん（50）は「会員の減少や運営資金の問題はあるが、青山さんの遺志を継いでいきたい」と話している。

青山さんは主婦業の傍ら、同会の仲間とともに、同市中心街の旧町名を調べ、「大津百町物語」（サンライズ出版）を出版したり、町家で歴史文化を学ぶ「萬塾」を開いたりして、保存活動に尽力した。

青山さんの遺志継ぐ

町家保存へ決意新た

しのぶ会



青山薫子さん
=07年10月

大津の町家保存に尽力し、9月に60歳で急逝した「大津の町家を考える会」会長の青山薫子さんをしのぶ会が16日、大津市中央1丁目のまちづくり大津百町館であった。友人ら約40人が集まり、早すぎる死を悼むとともに、まちづくりへの遺志を引き継ぐと誓い合った。

青山さんは静岡県生まれ。結婚を機に大津に移り住んだ。町家の魅力をまちづくりに生かそうと97年に発足した同会に参加。会では大津に百あったとされる旧町名を調べ



青山さんゆかりの町家で、参加者一人ひとりが思い出を語り、遺徳をしのんだり大津市中央1丁目のまちづくり大津百町館

H20. 11. 17 朝日

て歩き、99年には「大津百町物語」を出版。01年には丸屋町商店街にある町家を借り受け、同会の活動拠点としてまちづくり大津百町館を開発した。03年から2代目の会長を務めた。

「すぐだれとも親しくなれ、お母さんのような存在だった」「町家の価値を教えてください。今後も遺志を引き継ぎたい」。お茶とお菓子をまみながら、一人ひとりが青山さんとの出会いや思い出を紹介した。

嘉田由紀子知事からは「自分たちの町の魅力を発見し、自分たちで守っていくという自助・共助のモデルになった」、上原恵美・びわ湖ホール前館長からは「大津の町は大きな存在を失ってしまった。逝去を悼みます」とのメッセージが寄せられた。